

SYNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは、平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No.49 2020. 5

今月のテーマ:平和と日本国憲法



PEACE CELL project



ピースセル（平和の細胞）プロジェクト（=PCP）を始めました！

PCPとは、教育関係者、エイドワーカー、デザイナー、劇作家、俳優、ボランティアが、イラクにおける平和教育と環境保護に特化したプログラムを行う、日本とイラクの共同プロジェクトです。

PCPは、イラクの公立の学校カリキュラムに「図書」と「演劇」を入れることを目標にしています。

長引く戦争、激増する避難民の受け入れでイラクの教育現場は、短期間の「詰め込み教育」のみが行われるようになっていきます。

「平和教育」を進めるには、想像力を広げ、表現力や創造力を高め、深く考える力や共感力を促進するためにまずは読書習慣が必要と考えています。

高遠菜穂子さん（イラク人道支援ワーカー）

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス 

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784

FAX 06-6920-2203

E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

カリタスジャパン担当 松永 敦

主のご復活おめでとうございます。緊急事態が宣言されてなお主なる神様は復活を通して私達に希望を与えて下さっているように思います。

さて、今回頂いたテーマは「平和と日本国憲法」です。この「平和」と「日本国憲法」の2つについて考えるにあたって最初に触れたい詩があります。この詩はカトリック信者で批評家の若松英輔さんがラジオで紹介していたものです。岩崎航さんの『点滴ポール』という詩集に収められている作品です。

障がい者は戦争のない
平和の中でのみ
生きていける
だからこそ平和を担う
世界市民となれるはず

障がい者は平和だからこそ生きていけると岩崎さんは言っています。今、ある国々では人工呼吸器が不足し、トリアージが行われていますが、新型肺炎でなくても人工呼吸器がなければ生きていけない人は世界中にたくさんいます。また、薬がなければ生きていけない人もたくさんいます。平和だからそのような人々は生きていくことができます。医療機器を有効に使うことができるのは病院に電気が供給されているからです。薬が必要とする人の手に渡るのは流通が機能しているからです。そのような人々のいのちを私達が自由にしていっわけがありません。だから、戦争はしてはいけません。平和について考えるというのは、最も弱い立場にある人をどのように守るかを考えることです。それは同時に、他者とともに生きる喜びを選ぶことにも繋がっていきます。

平和憲法と呼ばれる日本国憲法はそのような精神に基づいて生まれたものです。この憲法の性格は、国家権力を制限して、ひとりひとりの人権を保障するものです。そして、国民が政治家や公務員に守らせるものが憲法です。大きなものために誰かのいのちが犠牲にされることのないように、弱い立場にある人を守るために強い立場にある人をしぼる役割を憲法は持っています。これは政治の話ではなく、いのちについての話です。中途半端ではございますが、紙面の都合上、ここで終わりとさせていただきます。



今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 カトリック教会の社会教説
- 3 子どもたちに伝えたい平和
- 4 ノートルダム女子学院中学高等学校の取り組み
- 5 時報5月号より
- 7 教えてください～！！第2弾！
- 9 みんなのけいじばん
- 10 沖縄とわたしたち
- 11 憲法がかわったらどうなるの？
- 12 あとがき



2020年度は、「教会の社会教説」から

信仰と生活を結びつけて社会の中で生きていくためのヒントをもらいましょう！！

福音宣教に欠かせない社会活動

社会福音化部部长 ヨゼフ・アベイヤ



大阪教区の再宣教150年記念誌の中に、大阪教区の社会活動の歩みが紹介されています。50年前から続けられてきた活動の記録を読みながら、わたしたちの間からもう去って行かれた多くの方々を思い出します。この方々の生き方と活動はわたしたちの心に福音の光を照らしてくださったのです。わたしたちの信仰の歩みを支えた方々でした。

社会活動と言いますが、勘違いをしてはいけません。その活動は信仰の証しであり、福音宣教の大事な働きです。福音的な観点から、言い換えればイエスのまなざしで、社会を見つめて、どのようにキリスト者としてその中で生きるか、また、どのように、イエスのように社会の中で弱い立場に追い込まれている人々と関わるかを探ります。そして、みことばに導かれて具体的な行動を通して、すべての人々に福音を伝えるように教会を派遣されたイエスの呼びかけに答えようとしています。

キリスト者の社会活動は、「神の国」のみを求めているものです。聖霊に導かれて、イエスのことばと生き方を心に留めて行われるものです。だからこそ、深い霊性が必要です。再宣教150年記念誌で社会活動の歩みを紹介する記事に登場してくる多くの人々の生き方と活動を振り返ってみますと、はっきりとこれを感じます。

大阪教区では、こういう福音宣教の大事な側面は大切にされてきました。この活動を通して、具体的に関わった人々を初め教会全体が福音化されてきたのです。教皇パウロ六が何回も指摘されたように、貧しい人々、虐げられた人々との関わりは教会を福音に連れ戻します。教会の歴史はこれを証明しています。

大阪教区では現在も、各小教区、ブロック、地区で社会の福音化を目指して、様々な活動を通して福音宣教に励む方々が大勢いらっしゃいます。教区の社会福音化部はこういう活動を支える役割を担っています。そのため、社会福音化部門ではいくつかのセクションを設け、それぞれの課題に対応できる体制を整えています。新福音化、正義と平和、部落差別人権、障がい者、難民移住者、各言語司牧、船員司牧、カリタスです。そして、すべての社会活動の働きに奉仕する大阪教区社会活動センター・シナピスがあります。

シナピスは大事な役割を果たしています。大阪教区のすべての社会活動委員会のお互いの繋がりを強めるように、また、その働きを支える霊性を深めていくようにつとめています。そして、具体的に難民移住者への支援を初め、様々な形で疎外されている人々を支えようとしています。

同時に、大阪教区と、人権、環境や様々な社会の課題に取り組んでいる多くの人々と団体との出会いの場でもあります。福音宣教に欠かせないものです。

私にとって、教区の社会活動センターでの三年間の働きは大きな恵みでした。

これからもその歩みが豊かな実を結ぶように心から祈ります。



アベイヤ司教さま ありがとうございます。3年という短い間でしたが、溢れるほどの愛をもって教え導いていただきました。「なにを、してんのや」と言われないように、頑張ります。司教さまのご活躍、ご健康を心よりお祈り申し上げます。

子どもたちに 伝えたい平和



二杯分の余裕

大阪女学院中学校・高等学校 平松秀元

想像を超えた被害をもたらしている新型コロナウイルス。河川の限界を超える雨が降れば堤防が決壊し、一気に被害が拡大するように、もし感染者の数が医療機関の受け入れられる数を超えてしまうと、とんでもないことになります。なので、マスク着用、手洗い、うがい、緑茶等を飲んでみるとか、うつされないように、うつさないように、努めましょう。

さて、ネットを見ても、コロナに関して良い話というのは、あまり見かけません。アジア系の人たちが海外でコロナがうつるなどと言われて、そっぽを向かれたり、公共交通機関の乗車拒否や、挙句の果てにモノを投げられたり…。いわゆる、いじめのような差別的な扱いを受けています。みんながみんないつも差別をするのではありません。何か不足したり、心の中で不安・心配が増幅したりしたときに、このようなことをする人が増えてくると思います。私は学校に勤めており、傍目、学校は、正しいことを教えるところだと一般的に考えられているんだなあ、中において感じています。確かに算数や数学でも正しい答えはマル、間違っている答えはバツになり、正しい方が良いに決まっています。基礎的な学習に関しては、みんな同じ答えで、それが正しい。それはそうでしょう。

しかし、正しいことが良いこと…。果たしてそれだけで良いと思っていると、良くないことがおこります。先ほどの差別の話に戻りますが、差別的な酷いことをやっている本人は、正しいことをしていると思って、そういうことをしてしまう人もいます。しかし、自分と相手を置き換えて考えることは、できないのでしょうか。

ここで、皆さんが良く知っている聖句。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7:12)」

そういえばツイッターでこんな話が。(知ってる人もいるかも)「一昨日ゴミ捨てに行ったら近所のお婆さんが日傘をもって歩いていて日傘をさしていると人と自然と一定の距離感が出来るから安心と言っていて目からウロコが落ちた。コレがお婆ちゃんの知恵袋か！」

距離を置くそぶりが、相手の気持ちを害してしまうかもしれない。しかし、日傘をさしていれば自然と距離をとることができ、相手の気持ちを害することもないという見事なアイデア。

正しさを振りかざすだけではなく、相手のことをきちんと考える余裕からうまれるやさしさ、見習って行動に移していきたいですね。

結局、不安や不足、正しい、常識だと思っていることが、本当にそうか立ち止まって考える、何度も考える。そのことが、戦争などの暴力的差別的な行為を止めると思います。思い、言葉、行い、怠りの罪。度々立ち止まり、考え直し、話し合う。そのための余裕を持ちましょう。コーヒーやお茶を相手の分も入れて、一緒に飲みながら。

ノートルダム女学院中学高等学校（京都市左京区）も取り組んでいます！

校長 栗本嘉子

新型コロナ肺炎感染拡大の為に、4月13日より、全校オンライン授業を開始しています。授業に先立ち、毎朝、全校の教職員およそ70人は、皆で心を合わせて、感染拡大の収束を願いながら、祈りを捧げています。テレワーク要請で自宅に居る教職員も、校内にいる者たちも、あちこちに散らばりながらも、同じ言葉で、一つの祈りに心を込める時、同じ思いでつながっていることを強く感じることができます。

新型コロナウイルス感染の収束を求める祈り

- † 主よ、今この時にあたり、皆で心を一つにして、あなたのみ声に耳を傾け、私たちは祈り求めます。
多くの命が危機に脅かされている状況の下で
一日も早くこの地球規模での感染拡大が収束することを願い求めます。
そして世界中の一人ひとりの尊い命が感染のリスクから守られますように祈ります。
次の方々を特にあなたのみ心に留めてください。
- 自らの命をリスクにかけて日々様々な状況の下で病人の治療に懸命に当たられておられる医療従事者を、特にあなたの慈しみの中でお守りください。
 - 世界中の為政者たちに、賢明な知恵が与えられ、よい意思決定ができるように彼らをお導きください。
 - 弱い立場に追いやられている人々や情報から取り残されていく人々、孤独と哀しみの立場に置かれている人々に慰めと希望をお与えください。
 - 世界中のすべての子どもたちが、毎日学び舎に来ることができない者たちも含め、彼らの健康を守り、日々の学びが深まるように、自分を世界に向かって自由に開き、新しくチャレンジすることに勇気を持ち、そこから知的な喜びを得ることができるように、どうぞ彼らを守り、あなたの光でゆく道を照らし、導いてください。
 - 世界中の教育に従事する者たちが、学習者に真摯に向き合い、新しい価値を創造することを躊躇せず、固定概念から自由になって新しい試みや取り組みにチャレンジしていく勇気を、あなたの知恵と共に授けてください。

これらすべての願いを、あなたの御手にゆだねます。
私たちの主イエスキリストによって。アーメン †



教職員は離れ離れでも、心をあわせています。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より一部抜粋

今年の平和旬間に向かって

社会福音化部部門長 ヨゼフ・アベイヤ

まず、平和旬間の様々な企画を方向付けるテーマについて話し合いました。
最終的に、2020年の教皇フランシスコの世界平和祈願日（1月1日）のメッセージに基づいて、
「**平和、それは希望の道**」にすることが決まりました。そしてサブタイトルとして、教皇が
同じメッセージの中で述べておられる平和への道を歩むための三つの条件を付け加えました。
「**対話、和解、エコロジカルな回心**」です。

各小教区、ブロック、地区などで創造的な企画が行われると思います。
この企画をより豊かなものにするために、
三つのことに注意していただきたいと思います。

- 若い人たちと子どもたちの参加。
プログラムの一部を青年たちに任せるのはその一つの可能性です。
- 外国から来られた信徒の参加。この兄弟姉妹たちは、
私たちの視野を間違いなく広げてくれます。
- そのために、言語についての工夫が必要でしょう。
地域の人々への働きかけです。彼らを招きましょう。平和は皆の希望です。
共に考え、共に行動することが大事です。



昨年教皇フランシスコが広島で述べられたことばを思い起こして、
平和への決意を新たにしたいと思います。

「わたしは平和の巡礼者として、この場所を訪れなければならないと感じていました。激しい暴力の犠牲となった罪のない人々を思い出し、現代社会の人々の願いと望みを胸にしつつ、静かに祈るためです。とくに若者たち、平和を望み、平和のために働き、平和のために自らを犠牲にする若者たちの願いと望みです。わたしは記憶と未来にあふれるこの場所に、貧しい人たちの叫びも携えて参りました。貧しい人々はいつの時代も、憎しみと対立の無防備な犠牲者だからです。」

宣教司牧の使命を果たす

いちにちも早い終息を願って

聖ザベリオ宣教会 管区長 コデノッティ・クラウディオ

3月、アベイヤ司教は、新型コロナウイルスによる感染で多くの司祭、修道者を亡くしたザベリオ宣教会に心を寄せ、日本管区長コデノッティ・クラウディオ神父へメッセージを送りました。それに対し、管区長は現状と今の思いを綴ってくださいました。

2020年4月8日

カトリック大阪大司教区
アベイヤ補佐司教様

✦主の平和

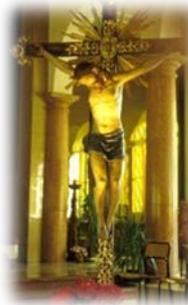
聖なる過越しの3日間を過ごす中で、新型コロナウイルスによる感染が世界的レベルで拡大するニュースに日ごと触れ、この災禍により亡くなられた方々の安息を祈るとともに、感染された方々、また現在治療を受けておられる方々の回復をお祈りいたします。また日夜、対策や治療にあたられている関係者の皆さまのお働きに感謝と健康をお祈りし、一日も早い終息を願い会員一同ますます祈りを重ねております。

さて、このような世界的に新型ウイルスの脅威におかれている状況の中、聖ザベリオ宣教会のパルマ本部の会員の帰天に際し、お心を寄せてくださいましたことを心から感謝申し上げます。つきましては、その状況と会員につきましてご報告するとともにお祈りくださいますようお願い申し上げます。

感謝と祈りのうちに

聖ザベリオ宣教会
管区長 コデノッティ・クラウディオ

聖ザベリオ宣教会
パルマ本部聖堂の十字架



新型コロナウイルスによる感染は世界的レベルで拡大し、国内外における感染者と死者の増加の報道がされない日がありません。中でも私たち聖ザベリオ宣教会本部のあるイタリアでの感染は更に広がり、日本も同様の状況です。パルマ本部修道院では既に19名もの司祭、修道者が帰天しました。その中にはか

つて日本で宣教司牧をした神父もおります。その方々との出会いや、一緒に親しく懸命に働いたことを思い出しながら、驚きと悲しさの中でも、この機会に改めて宣教司牧をする私達の使命について目覚めながら、さらにこの使命を果たしていけるよう、兄弟たち皆が心を新たにし、強い心で歩みを進めていきたいと思っています。どうかともにお祈りください。また、亡くなられた方々の安息と、現在治療を受けられている方々の一日も早い回復と、そして様々な対策や治療のために日夜努力されている関係者の方々の働きに感謝し、この方々の健康のためにもお祈りいたします。



聖ザベリオ宣教会
パルマ本部屋根のキリスト像

会員が働く宣教地



ブルンジ共和国
十字架の道行き



フィリピン共和国
初聖体の子どもたち



コンゴ民主共和国
堅信準備
子どもたちへのカテキズム

愛と連帯のパンデミック

福音宣教省 タグレ枢機卿より



新型コロナウイルスのパンデミックに全世界が悩まされています。多くの人々はいのちを失い、感染した人の数は増え続けています。不安の中に生きているのです。福音宣教省の責任者でいらっしゃるタグレ枢機卿はこの状況についてコメントを求められました。そこで大事な指摘をなされたのです。

新型コロナウイルスの状況は「パンデミック」と言われています。この言葉はギリシャ語の「パン」（「すべて」という意味）と「デモス」（「人々」あるいは「群衆」という意味）から来ています。つまり、すべての人々に及ぶものです。

こういう状況の中で、別の「パンデミック」を起こさなければならない。

それは「愛と連帯のパンデミック」です。

お互いに責任を取り合って、仕え合うことです。希望への唯一の道です。



教えてください~!! 第二弾!

「エコロジカルな回心」とは?



*教皇フランシスコが出された「回勅ラウダート・シ：ともに暮らす家を大切に」。何回も読んで
は挫折していたこの本を、もう一度読み返してみました。でもやっぱり、わかったような、わか
らないような。何がわからないのか、頭を整理するためにまとめてみました。(間違っていたら
ごめんなさい!)

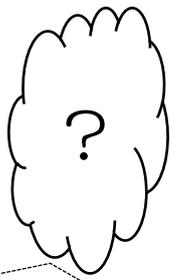
「ラウダート・シ」で何が語られているのだろう?

私はこれだわ...

めんどくさい 捨てちゃえ 私だけがやっても
もっと快適に 税金でやってよ
いつも足りない 誰かがやるよ
自分の金を好きに使って何が悪い
はてなき欲望と使い捨て文化

海洋汚染 地球温暖化 干ばつ・飢饉
大気汚染 貧困の集中化
生態系の破壊 衛生的な飲み水の不足
貧しい地域での疫病の蔓延
環境の破壊と貧しくされた人々の人権の蹂躪

節電 ごみの分別 使い捨てをやめる
質素な生活 次世代と共に考える
霊性を深める 政治に関心を持つ
神様の作ったものを大切にする
エコロジカルな回心??



すべてのいのちが
守られる共通の
家の実現

👉 わからないのはココ!
★具体的にどうしたらいい?
★どんな知恵があるのだろう?

👉 わからないのはココ!
★個人の力はどうしたらみんなの力につながるのだろう?
★私たちの生活や心はどう変わっていくの?

そこで、みなさんのとりくみや、感想などを教えてくださいませんか。
昔から言い伝えられている知恵などもぜひ教えてください!

シナピス工房より

ジュートタワシ 作ってみました

スポンジタワシを使いながら気になっていました。

プラスチック製品は

- ① 有限な化石燃料が材料 😞
- ② 燃やすと地球温暖化を促進する 😞
- ③ マイクロプラスチックが海に流れ出す 😞

何か他にいい物はないだろうか

そうだ! ジュート*タワシがある

*ジュート(黄麻)は、高温多湿の地方で栽培されている植物繊維。肥料や農薬をあまり必
要とせず栽培でき、製品は土に還るので、プラスチック製品に比べ環境負荷が少ない。

いろいろなタイプのタワシを試作し、使ってみています。少しの汚れなら石けんなしで落ちます。
スポンジに比べると確かに泡立ちが少ないですが、環境に負荷をかけているというストレスは激減。

- 油污れがひどいものは
- へらで油を落とす
 - 丸めた広告紙で拭く
 - ぼろ布で拭く
 - ミカンの皮で拭く

ジュートタワシで洗う

自信作ができたなら、皆さんにもご紹介します
乞うご期待!!





みんなの けいじばん



こんにちは！みなさんいかがおすごでしょうか。

新型コロナウイルス感染の拡大に伴って緊急事態宣言が出され、シナピス事務所も当面の間閉鎖となってしまいました。さまざまな不安や恐怖もなくなりません。しかし、こんな時こそ、不安な気持ちも希望もすべてみなさんと分かち合いながら乗り切っていきましょう！このページはみなさんと作るページです。日ごろ思っていることやちょっとしたエピソード、シナピスニュースの感想などをなんでもご投稿ください。

今月はまだ人の移動がどうなるのか不透明なので「ゆずります」、「探しています」はお休みします。その代わりとして、医療従事者など生活を支えてくれる方々への感謝を表す祈りの輪を紹介します。

あんなこと、こんなこと

祈りの力

三月二十五日の午後八時、フランシスコ教皇が、新型コロナウイルス感染の世界的な拡大に一致して対応するため、全世界の信徒が心を合わせて主の祈りを唱えることを呼びかけられました。近頃教会に行かなくなっただももたちに一緒に祈ろうと誘ったところ、案の定、中学生の兄は、また面倒なことを言い始めた顔をしかめました。

「祈って何になる？病気が治る？感染が止められる？」文句がひとしきり出た後、小学生の妹がつぶやきました。

「でもね、お祈りの力って、本当にあるんだって。」本好きの彼女はどこかでそんな話を読んだそうです。

確かに私たちは祈りで目の前の病人を治すことはできません。休校中の学校を開いてあげること、自由に友達と遊ばせてあげること、健康と命をかけて奉仕している人々に感謝を捧げ、苦しんでいる人が少しでも癒されるように神様にたのみ、自分にできることが何かを考えることができます。誰かと心を寄せ合い、あきらめずにとともに作る未来を信じることができるのです。

今は子どもたちにわかってもらえなくても、やはり伝えていきたいと思った夜でした。

(大阪府・悩める母)



世界中で、医療従事者をはじめとする私たちのいのちを守ってくださっている方々への感謝の輪が広がっています。シナピスの関係者から教えていただいた動画や情報を紹介します。

🍷 イタリア・ベルガモの医療従事者を支援する動画



ミラノ近郊のベルガモ市という世界遺産にも登録された街は、イタリアの中でも新型コロナウイルスの感染者が多く甚大な被害が出ました。

この街の医療従事者を支援しようと、現地の作曲家が「Rinascero' rinascerai (私はよみがえる、あなたもよみがえる)」という曲を作りました。Youtube でこの映像を再生することに、広告、著作権などの収入がベルガモの医療崩壊を救うための寄付金となるそうです。再生は無料です。

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=D5DhJS5hGWc>

🍷 クラップ・フォー・ケアラース (医療従事者らへ拍手を)

最前線で新型コロナウイルス感染者とともにたたかっている医療従事者に敬意を表し、時間を決めてみんなで拍手を送ったり、建物をライトアップする行動です。感染防止のため家から出られないため、世界各地で自宅の玄関やベランダから拍手を送る映像がテレビやネットでも流れました。ここ関西でも宝塚市や東大阪市などの地方自治体が始めています。



「あんなこと、こんなこと」、今回はお休みした「ゆずります」、「探しています」ともに、FAXかメール、右のQRコードからご投稿ください。QRコードの読み込みにはスマートフォンなどでQRコードリーダーのダウンロードが必要です。



☆投稿FAX：06-6920-2203 メール：sinapis@osaka.catholic.jp
☆締め切り：2020年5月19日(火)まで

沖縄とわたしたち 第21回 「沖縄が育てる記者魂」

声をあげた沖縄タイムス記者！

首相と官邸記者クラブによって進められる「仕込まれた」記者会見は、「台本発表」とも「劇団記者クラブ」とも言われ、メディアのあり方にも批判が高まっています。そんな中の3月14日、全国の学校に一斉休校を求めた時の総理記者会見が一方的に打ち切れそうになった際、沖縄タイムス記者の阿部岳さんが、「まだ質問があります」と声をあげました。

「AERA dot. (4月13日)」(<https://dot.asahi.com/>)「HARBOR BUSINESS (4月21日)」(<https://hbol.jp/about>)の記事によると

安倍首相は

予定された「20分程度」の会見時間の内、21分間、プロンプターを見ながら具体策のない演説を行った。

20分後、司会の内閣広報官は

まだ手が拳がっているにも関わらず会見の打ち切りを宣言。

阿部記者は

浮くことを覚悟で「まだ質問があります」と叫んだ。

他社の記者たちも

「仕込んでない質問に教えてください」
「終わっちゃだめですよ」と大声で抗議、怒号が起こる。

阿部記者は記者たちの気迫に押されるように

「総理、これ記者会見と呼べますか」と問いかけた。

騒然となる会場

結果としてそのあと首相は4つの質問に応じ、会見は予定の2倍以上の52分間に及んだ。

阿部さんは台本通り
がちがちに固められていた
記者会見会場で、どうして
真っ先に声をあげることが
できたのかな



記者クラブの他の記者たちに先駆けて抗議できたのは、常駐でないという気楽さがあったからと阿部記者は述べています。でもそれだけではないでしょう。阿部さんは辺野古

や高江で、時には逮捕される危険を冒して取材活動を行っています。その経験は、政治権力と対峙することの厳しさ、大切さを阿部さんに教えたに違いありません。また米軍統治時代から、数々の知る権利、表現の自由に対する弾圧に抵抗してきた沖縄の人々の闘いが、沖縄タイムスを育て、阿部記者を育てたといえます。阿部さんはなぜ記事を書くのかと問われ、

「世の中の矛盾や問題点を変えたいからですよね。本気で変えるつもりがあれば、力のこもった文章になりますし、取材のやり方も変わってきます」と答えています。ちなみに彼は生まれも育ちも本土です。

歴史に触れよう！

「地上戦の日々② 艦砲ぬ喰え残さ」

日本人にとって戦争の記憶の中に占める空襲の割合は大きいでしょう。沖縄ももちろん、1944年10月10日の米軍機の大襲来に日本軍はなすすべもなく、那覇市の大部分を焼き尽くされました(10・10空襲)。しかし多くの沖縄戦体験者は、空襲よりも艦砲(軍艦の大砲による攻撃)の方が怖かったと証言します。本土でも大戦末期艦砲を経験しましたが、いずれも短時日で、沖縄のような3ヶ月に及ぶものではありません。

米軍の上陸に先立ち、沖縄の沿岸は「海が真っ黒に見えた」と言われるくらい米軍の軍艦に埋め尽くされ、「鉄の暴風」と形容された大量の砲弾が撃ち込まれました。空襲は飛行機が来なければ大丈夫ですが、艦砲は朝から夜まで間断なく続き、攻撃の方向も漠然と海の方からとしか分かりません。砲弾は日本軍のみならず、逃げ惑う住民にも襲い掛かりました。直撃を受ければ人は木っ端みじん、肉片しか残りません。直撃でなくても砲弾の破片により一瞬にして身体が切り裂かれ「かっと目を見開き、口を開けた上半身だけの遺体」となった人もいます。破片の断面は鋭く、小指の先ほどの小さいものであっても殺傷能力は十分でした。この激しい砲撃から生き残った人たちは、自らを「艦砲ぬ喰え残さ」(艦砲の食い残し)と自嘲気味に語っています。



憲法が変わったらどうなるの？ 第18弾



コロナ禍で見た化(か)? 私たちのいのちをささえるもの

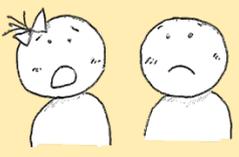
ある読者の方から、「今、自分が感じていることを代弁してる手紙があるんだけど」と一つの文章を紹介されました。ヴィヴィアン・R・リーチという方が書いた「コロナウイルスから人類への手紙」の一文です。今ウイルスによって危機に直面し、多くのいのちが奪われています。私たちはとても傷つき苦しみ、悲しんでいます。わたしたちには厳しいメッセージですが……。気づかされることがあります。

地球は囁いたけれど、あなたには聞こえなかった。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞くことを拒んだ。それで、私は生まれた……私はあなたを罰するために生まれたのではない……私はあなたの目を覚ますために生まれた……地球は助けを求めて叫んだ……

大規模な洪水。でもあなたは聞かなかった。厳酷な火災。でもあなたは聞かなかった。猛烈なハリケーン。でもあなたは聞かなかった。恐ろしい竜巻。でもあなたは聞かなかった。海の生き物が、水中の汚染物質によって死んでいっている。異常な速さで溶けていっている氷河。厳しい干ばつ。

それでもまだ、あなたは地球の声を聞こうとしない。どれだけ地球がひどい扱いを受けているのか、あなたは聞こうとしない。次々と続く戦争。次々と続く貪欲。あなたはただ自分の生活を続けるだけだった……

どれだけ憎しみがあろうが……毎日どれだけ殺害があろうが……地球があなたに伝えようとしていることを心配するより、最新の iPhone を手に入れることのほうがもっと大事だった。




辛い。ウイルスによって亡くなった方々を思うと胸が痛む。そして、今もいのちと向き合い、懸命に闘っている人たちの姿や声を聞いて、あらためていのちについて考えるようになったの。他人ごとじゃないからね。でも一方では、経済活動はストップされて、皮肉なことに自然界が息を吹き返し始めているというニュースを見たよ。



日本政府のコロナ禍への対応にみな不満は大きいけれど、いのちを守っていくのも、国を動かすのも、私たちひとりひとりの営みにかかっているということをつい忘れてしまう。

私たちの営みは、憲法があるから、かろうじて守られている。「わたしたちのいのちをささえているもの」やね。コロナ禍によって、残念なことに、憲法があるのにいかされていないことも結構あることに気づいたよ。



うん、教皇は「地球はわたしたちの共通の家」とおっしゃっているよ。人間のいのちを守るということは、生きてるすべてのものを大切にしなければ一緒には住めないよってことなんやね。



いのちは大切にされ人権は尊重されているのか？
憲法第 25 条(生存権)

緊急事態宣言によって一人ひとりの自由が制限
憲法第 12 条(人権の保障)

不平等、格差が拡大 憲法第 14 条(法の下での平等)

このパンデミックで、苦しむ人々の間に国境や違いはないと改めて思いおこします。わたしたちは皆、弱く、平等で、大切な存在です。根底から揺るがされている今こそ、人類という家族の健全性をむしろ格差や不正義をなくしていくときです。

2020.4.24 Twitter
教皇フランシスコ

「今の憲法」こそ、世界から「格差や不正義」をなくし「平等と正義」へと導く力になれるのではないのでしょうか。わたしたちは素晴らしい宝を手に入れているんですね。

いかしていくのは誰だろう？

ネリさん母子裁判 中止

5月14日(木)11時半からの第二回高裁公判は中止、次回期日は未定です。

また追ってお知らせいたします。

電話でのお問い合わせは090-8886-6059まで

ご寄付のお願い

○こども基金期間限定のキャンペーンがはじまりました。

支援の必要な団体:申請随時受付しています!

また、募金、ご協力もよろしくお願ひいたします。

詳細はHPをご覧ください。

○難民移住移動者支援も引き続きよろしくお願ひいたします。

活動へのご支援ご協力をおねがひします

郵便振替 00960-7-61419

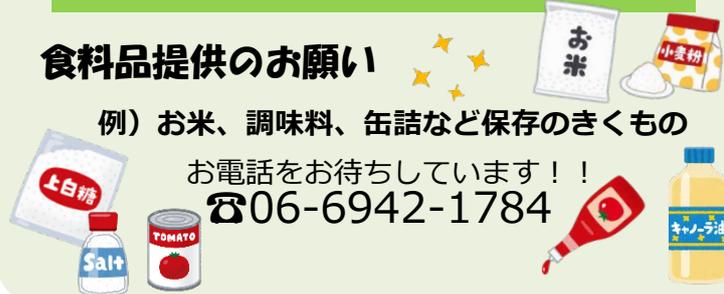
加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

食料品提供のお願い

例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784



◆ニュースレターは、しばらくHP上で掲載いたします。ご了承くださいませ。

あとなぎ

ある日の夕刻、仕事を終えて事務所を出るとアベイヤ司教がカテドラルの駐車場で散歩されていました。

司教はいつも速足です。ついていくのは容易ではありません。でもこの日は違っていました。サヨナラのあいさつを交わした後、後ろ姿に目をやるとその足取りはゆっくりで、何かを考え、深く祈っておられるように見えました。とても印象的でした。

司教は、膨大な仕事をこなされるので、机の上はさぞかし、山積みの資料で溢れていることだろうと思いきや、執務室はきれいに整理され、物がな。聖書とパソコン、そして今必要な書類が置かれているだけです。不要なものを持たず、いつでも、どこにでも、「仰せの如くすぐにまいります。」そんな姿勢がうかがえました。

福岡教区教区長の任命があつてわずか10日。「行ってきます」と手を振って大阪を発たれました。あつという間の出来事で正直、戸惑いは隠せませんが立ち止まってはいただけません。自分を解放して、ゆっくりと「信仰」を見つめ祈ることの大切さを丁寧に教えていただきました。

「キリストの愛に駆り立てられて」支え励ましてくださったことに感謝し、今後のご活躍をお祈りします。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達

・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約1000m

地下鉄中央線森ノ宮2番出口より 約800m

JR 玉造駅より 約1000m

地下鉄鶴見緑地線玉造1番出口より 約800m

車でお越しの場合

阪神高速13号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがひします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス